

第5回トレーニングワークショップはパネルディスカッションも交えて
(2023年6月30日)

本プロジェクトは、大柱として日本とベトナムの研究機関が連携・共同研究を実施し途上の社会問題解決と並行して、研究水準の向上や総合的な対処能力の強化を目指すものです。プロジェクト実施中・完了後の自立的・持続的な発展に向け、新型コロナの影響での一時中断を経て再開した HIV 薬剤耐性トレーニングワークショップも、ハノイ・東京で継続的に実施し、今回で5回目になります。

これまで4回の研修で得られた参加者からのコメントを踏まえて、内容にも更にバリエーションを加えました。薬剤耐性という基本テーマに加え、結核との重複感染、ニーズが高まるメンタルヘルスの問題を抱える HIV 感染者への対応について、講義を実施しました。特にメンタルヘルスのテーマは参加者からの要望が多く、現代社会では国を越えた取り組みの重要性が叫ばれる中、特に社会・経済的に苦しい状況に陥りやすい HIV 感染者の心の健康をどうサポートするか、サポートがより適切で継続的な薬の服用にどう繋がるかという点に対して、専門家から講義を頂きました。



前日には、パネルディスカッションをどう進めるかも含めて、ベトナムコーヒー飲みながら念入りな打合せ。



今回も田沼先生始め、国立国際医療研究センター、エイズ治療・研究開発センターの先生方に講義やファシリテートの支援を頂きました。

更に今回はより参加者側のコミットメントを促そうと、パネルディスカッションを実施しました。これまでの研修ではグループディスカッションといった形が主でしたが、今回は参加者により議論の主役となってもらうことを狙いに、パネラーとして具体的な症例を議論頂きました。多くの参加者が自信を持って自らの意見を発表し、大変心強い限りです。



パネルディスカッションでは、各病院から実際の症例を紹介してもらい、対処方法をパネラーと会場と一緒に議論しました。



パネラーに対して会場からも質問が出て、議論をする形で進めていきました。

最後は修了証書を参加者の皆さんに渡し終了しました。これまで 5 回に渡る研修への参加に感謝の意を表すと共に、継続した学習への励みになること、そして実際の臨床現場でこれら知識が活かされることを期待しています。

